

絆づくりは魔法の言葉で

「家庭の日」に寄せて 2

校長 内田恒一

思春期のお子さんかどうかかわればよい
か、親として悩まれた経験はあるのではない
でしょうか。左の例文をご覧ください。

□ どうしてできないの。 □ 遊ぶ暇があったら勉強しなさい。 □ きちんとやりなさい。

例文は、いずれも「あなたは」という主語
が省略されています。この言い方では、心配
や大切に思っていることが伝わりにくくなり
ます。そこで、『魔法の言葉』です。主語を
「あなた」から「私」に変えてみます。する
と、続くのは「どうしてできないの」ではな
く、「私は、今のあなたが心配だよ。頑張っ
ているのに、なかなか結果が出ないのはつま
らいよね。うまくいっているところをヒントに
もう少し続けてみよう。」

いつも右の傍線の内容や言い方になるとは
限りませんが、「私（親）」は味方であるこ
とは伝わります。

言われた方も話し手の気持ちが変わり、今
どうしたらよいかを考えることができます。
話し手と聞き手の双方にとってストレスの少
ないコミュニケーションといえます。

この秋は、親子の会話の中に、この「私メ
ッセージ」を取り入れてみてはいかがでしょ
うか。親子の絆づくりのために。